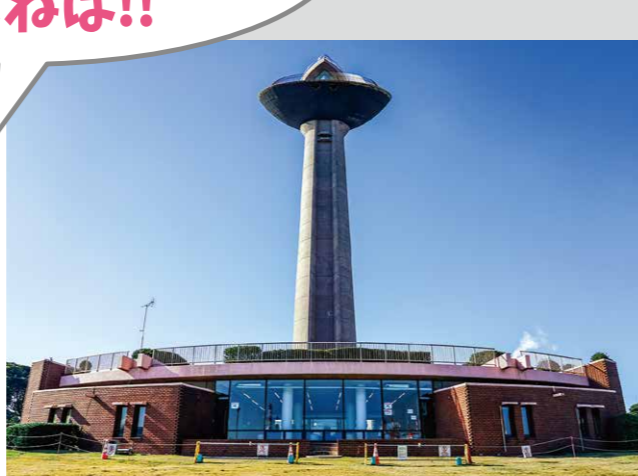


常任委員会

06 土木企業立地推進委員会 副委員長

委員会でも
しっかりと地元の課題を
訴えねば!!



港公園について

村田康成
地元の神栖市にも港公園があります。この港公園には、鹿島開発のシンボルとも言えるような展望塔がありまして、これが、今、立入りの規制があります。
展望塔の修繕と利用再開を要望させていただきたいと思えます。

都市整備課長
地元の皆様方には不安や御心配をおかけして大変申し訳なく思っております。引き続き、**県が主導的に検討を進めまして、早期再開**ができるよう努めてまいりたいというふうに考えております。
修繕につきましても、対症療法的でない予防的な修繕ですとか、あとは、予算を平準化しながら老朽化対策を計画的に行っていくこと、これが重要だというふうに思っております。

(仮称)鹿行南部道路検討委員会について

道路保全強化推進室長
国、県、関係市及びNEXCO東日本により構成されており、す(仮称)鹿行南部道路検討委員会、これが令和4年1月に設立され、鹿行南部地域における道路構想の具体化に向けた基本方針の検討を行っているというところでございます。

村田康成
東関東自動車道水戸線の潮来から鉾田のインターチェンジまでが令和8年に開通する予定となっていて、さらに、また鹿島港がこれからカーボンニュートラルに向けて、大きく大転換を図っていく中で、新たな道路構想に、**潮来インターチェンジから鹿島港まで**、高速道路の延伸なのか、それとも、高規格道路の新しい構想、計画なのか、非常に重要になってくるだろうというふうに思いますし、地域もその要望が上がるはずでありますので、新たな計画をつくるというような中で、ぜひとも茨城県として、この検討委員会で潮来インターチェンジから鹿島港までの新たな道路構想の意見を訴えていただければと思います。

道路保全強化推進室長
地元の御意見として、検討委員会の中で御報告をさせていただきたいと思っております。
県としましても、この構想の具体化に向けまして、国の調査等に積極的に協力をしてまいりたいと考えております。

調査特別委員会

07 県有施設・県出資団体等 調査特別委員会

鹿島セントラルホテル民間譲渡について



地元地域への
説明と
十分な議論が必要。
より良い施設に
なる事を
望みます!!

鹿島セントラルホテル民間譲渡までの経緯と解説

- 令和5年6月15日 鹿島セントラルホテルの民間譲渡の報道(茨城新聞)
- 令和5年6月27日 神栖市議会有志の会による住民説明会の実施を知事に要望(村田同行)
- 令和5年7月31日 県議会臨時会によって「県有施設・県出資団体等調査特別委員会」設置
- 令和5年8月8日/8月19日 県及び鹿島都市開発(株)による関係者や住民を対象とした説明会を2回実施
- 令和5年9月13日 調査特別委員会による現地調査(鹿島セントラルホテルにて)
- 令和5年9月25日 第3回調査特別委員会(8/2第1回,8/30第2回の厳しい審議によって譲渡時期が大幅に延期)で民間譲渡を承認
- 令和5年10月31日 鹿島都市開発・県による公募開始

●今後入札により事業者を決定し令和6年10月1日譲渡予定

解説 6月15日の報道以来、地域の財産(鹿島セントラルホテル)のあり方に、当初県として説明不足であり地元には衝撃を与えました。**神栖市議会有志により説明会の実施を要望**。知事はそれを受け入れ地元説明会を実施して、県議会においては何度も審議を重ねて、地域にとってより良い施設にするために、民間の力を活用し譲渡を決定しました。

村田康成県政活動報告 VOL.5

村田康成事務所 〒314-0344 茨城県神栖市土合東1-1-15 TEL:0479-21-9331 FAX:0479-21-9332

神栖市 希望
HOMEがHOPEであふれるように!

令和5年6月17日
土木企業立地推進委員会



令和5年9月15日 台風第13号被害調査視察



- 1977年8月20日生まれO型
- 2012年 神栖市議会議員初当選
- 2016年 神栖市議会議員二期当選
- 2018年 鹿行広域事務組合協議会 議長
- 2018年 茨城県議会議員初当選
- 2022年 茨城県議会議員二期当選

Profile

村田やすなりの県議会での取り組み

>>> 定例会における一般質問

- 01 鹿島臨海工業地帯の今後の展望とカーボンニュートラル産業の創出に向けた取組について
- 02 県と鹿行地域の医療における課題と方針について
- 03 教育行政の課題と取組について
(1) 県立高校のあり方と予算拡充
(2) 県立鹿島特別支援学校の課題
- 04 農業先進県としての農業振興策について
- 05 波崎漁港の整備促進と水産加工業者の安定した経営について



希望を創るために
「神栖」の
一生懸命!!



>>> 委員会活動

- 06 常任委員会
土木企業立地推進委員会 副委員長
- 07 調査特別委員会
県有施設・県出資団体等
調査特別委員会
誰もが輝く持続可能な地域を担う人づくり
調査特別委員会



SNSにて情報発信中!!

公式ホームページからは議会での一般質問の様子もご覧いただけます!



令和5年 第二回定例会 一般質問

03

教育行政の課題と取組について

01

鹿島臨海工業地帯の今後の展望とカーボンニュートラル産業の創出に向けた取組について

村田康成

今後、いばらきカーボンニュートラル産業拠点創出推進協議会を通じて、カーボンニュートラル産業の創出をどのように目指すのか、アンモニアサプライチェーン構築の可能性と鹿島臨海工業地帯の今後の目指すべきビジョンをどのように考えるか、見解をお伺いいたします。

知事

本県の強みである茨城港と鹿島港という2つの国際港湾を生かし、この2つの港をクリーンエネルギー拠点として、港湾間でのエネルギーの相互融通や、県外を含む内陸部への供給の仕組みも整えることで、産業分野の多様なエネルギー需要に応えつつ、調達、貯蔵、輸送など幅広い関連分野において新たなビジネス創出が期待でき、国内で随一の強靱かつ効率性の高い産業拠点の形成につなげてまいりたいと考えております。特に鹿島臨海工業地帯については、その産業集積を生かし、新エネルギーのサプライチェーン構築やコンビナートのエネルギー構造転換など、高い競争力を持つ産業拠点の創出に向けた取組を進めてまいります。



カーボンニュートラル
(二酸化炭素の排出をゼロにする)
産業の創出で
新たな鹿島開発の
ビジョンをつくる時だ!!



02 県と鹿行地域の医療における課題と方針について



03 県立高校のあり方と予算拡充について



04 農業先進県としての農業振興策について



一般質問の様子など詳しくはこちらからご覧いただけます!

みなさんの活動のおかげで神栖特別支援学校の新設が決まりました!!



県立鹿島特別支援学校の課題

村田康成

鹿行地域5市から子どもたちが通う鹿島特別支援学校は、神栖市から通う子どもたちが4割弱と割合が高く、原則80分のバス通学時間には収まらないという実態があります。かねてから、地元の保護者の皆様から、この現状を改善してほしいという切実な声があり、昨年いよいよ神栖市内において、神栖市に特別支援学校を求める署名活動が実施されました。期間は10月から12月までの約2か月で、何と1万人程度の署名が集まり、森作教育長へ要望書が届けられたところであります。県は、鹿島特別支援学校の課題をどう捉え、また、多くの署名が集まった要望書の重みをどのように受け止めて、新たな施設の建設や既存施設を活用した鹿島特別支援学校の分校設置の可能性や、地元市との協力、連携などを踏まえた課題解消の可能性をどのように考えるのか、教育長に質問いたします。

教育長

神栖市内からの鹿島特別支援学校に通う児童生徒の負担軽減策につきましては、県といたしましても重要な課題と認識しており、議員御提案の新たな施設の建設や、神栖市の有する既存施設の利活用なども検討の土俵から除外することなく、課題解決に向けて、神栖市と十分に連携を図り、取り組んでまいります。県といたしましては、特別支援学校に通う児童生徒一人一人が快適に学校生活を送ることができるよう、引き続き教育環境整備に取り組んでまいります。

05

波崎漁港の整備促進と水産加工業者の安定した経営について

村田康成

近年では、温暖化の影響による漁獲量の減少のほか、原油価格の高騰や電気代の値上げなどで、特に水産加工業者の皆様が経営が圧迫されております。現在、県によって波崎漁港の後背地の整備が進められております。地元の声に寄り添って、整備促進に力を入れていただきたいと思います。さらに、後背地の整備と併せて、船の安全な入出港のために、漁港入り口付近の新たな整備計画の検討が必要です。波崎漁港の近海の鹿島灘は、ほかにも比べて波が荒く、航海の安心・安全のための整備が重要であります。本県の水産業発展のために、今後の波崎漁港の整備と水産加工業者の皆様への支援をどのように考えているのか、農林水産部長にお伺いをいたします。

農林水産部長

波崎漁港の整備につきましては、魚が回遊するタイミングを捉え、確実な入出港と水揚げが行えるよう、航行に必要な水深を確保するためのしゅんせつと、港内への波の侵入を防ぐ防波堤の整備を進めてまいります。県といたしましては、これらの施策を着実に進めることにより、漁業と水産加工業が車の両輪となり、一体となって発展する水産のまち波崎の振興に取り組んでまいります。



電気料金の高騰による影響は大きい。支援事業をもっと提案していかなければ!



令和5年8月1日 読売新聞掲載

神栖に特別支援学校

県が新設方針 27年頃完成目指す

保護者ら署名1万人提出

鹿行地域で特別支援学校の需要が高まっているとして、県が神栖市内に同校を新設する方針を固めたことが31日、関係者への取材でわかった。設置は市南部の波崎地区を予定し、2027年頃の完成を目指す。子供の通学距離通学などを問題視する市内の保護者らが新設を求める約1万人分の署名を提出しており、県は対応が必要だと判断した。

県教育委員会特別支援教育課によると、県内に特別支援学校は5校あるが、鹿行地域には「鹿島特別支援学校」(鹿島市沼尾)の1校しかない。新設が実現すれば、同地域で2校目の特別支援学校となる。鹿島校では現在、鹿嶋や神栖など鹿行5市の児童生徒356人が在籍しており、神栖市からは約130人が通学しているという。県教委は在籍数が増加する鹿島校の校舎を増築した

が、同校は「プレハブ校舎の増築は応急処置的な対応で、子供の教育環境には望ましくない」との懸念も示していた。

森作宜民・県教育長は6月の県議会一般質問で、村田康成県議(いばらき自民党)の質問に対し、「神栖市内から通う児童生徒の負担軽減は重要な課題だ」と発言。大井川知事も記者会見で「新設も選択肢から排除

除するつもりはない」と述べていた。